

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	北広島町立八重小学校	校長	江崎 繁	生徒指導主事	松本 浩司
取組事例名	『みんなで話し合って解決』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
・学校生活の中の様々な課題について、児童が意見を出し合い、比べ合い、合意形成をしながら解決策を考えることを通して、自分達で課題解決する力を育てる。	・日常の生活課題について、自分達で、話し合って解決しようとする児童。 ・色々な意見を出し合いながら、よりよい解決方法を合意形成によって決めることができる児童。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
◎ 中・高学年において、毎月1回程度の学級会を行った。学級会を行う際は、次の指導内容に留意して実施した。 ①学級の発達段階や児童の実態に応じて、学級会の目的や話し合いの進め方についてのガイダンスを行った。 ②話し合いの進め方として、「出し合う」「比べ合う」「まとめる（決める）」の3段階討議法を説明し、流れに沿って話し合いを進めた。 ③司会グループは、輪番制とし、出席番号の順番で、司会、副司会、黒板書記、ノート書記の役割を分担して行った。最初は教員が司会の補助を行い、あらかじめ作成した司会進行シナリオに沿って話し合いを進めた。 ④黒板に、話し合った内容をわかりやすく整理するために、板書用カードを活用して板書を行った。 ⑤話し合いの際に、「友達の意見を最後まで聞くこと」「相手の意見を否定するのではなく、お互いの意見を大切にしながら合意形成を図ること」など、約束を確認して進めた。 ⑥集会活動の内容が決まったら、その内容について心配な事はないか「心配意見」を出し合い、クラスの全員が楽しく、集会活動に参加できるようなルールや内容を工夫した。	児童にめあてをもたせるために ・学級会のガイダンスでは、何のために話し合うのか、目的を丁寧に説明した。 ・話し合いの様子をよりイメージしやすいようにするために、絵本「みんなのたいよう学級」を活用した。 児童の意欲を高めるために ・最初の議題を「集会活動」に設定し、クラスみんなが楽しめる内容を話し合わせた。 ・内容が決まったら、実行委員を選出し、準備や当日の進行等、児童が中心になって進められるようにした。 児童の頑張りを認め、価値付けるために ・集会後は必ず振り返りと認め合いを行った。「自分のこと」「友だちのこと」「みんなのこと」「次につながること」の観点で、良かったことや反省点を振り返った。



3 成果と課題

○学級会の進め方に沿って話し合い活動を行うことは、ほとんどの学級で初めての経験だったが、学級会の進め方や約束などに沿って意見交流を行うことで、充実した話し合い活動を行うことができた。 ○これにより普段の生活の中でトラブルがあった時にも、話し合って解決しようとする雰囲気が出た。 ○高学年では、生活目標実現の具体的な取り組みを検討する話し合いや振り返りの際に、学級会の進め方を参考にしながら、代表委員が司会進行をして話し合いを進めることができた。その際、ペアやグループを活用して、よりよい解決方法を話し合わせるようにしたことも効果的だった。 ○2学期末に実施した児童アンケートでは、「話し合い活動では、友だちの意見を大切にしたり、自分から進んで意見を言ったりしている」について肯定的な回答をした児童が、1学期の67%から74%に増加した。 ■今後は、児童が自分達で気付いた課題や学校生活をよりよくするための議題を、各学級に設置した「議題箱」に提案させ、それをもとに話し合い活動を行わせたい。	
---	--